

京都

丹波・丹後

長年生徒見守ったイチョウの木

まな板となり根付く



イチョウを加工し完成したまな板を依田響生徒会長(右)に手渡す中田透さん。左端は水嶋守さん。舞鶴市京田の市立城南中

舞鶴・城南中に寄贈

舞鶴市立城南中学校(同市京田)の校庭脇にあったイチョウの木。長年生徒の登下校を見守っていた。しかし、道路工事のため今年1月、切り倒された。秋には黄色い葉が心をなごませ、周辺住民にギンナンを提供していた。「どうにか残せないか」。OBらが奔走し、12枚のまな板に生まれ変わった。同校は家庭科の調理実習などに役立てる。伐採され木はなくなったが、授業で使われることで生徒の心に根付き続ける。【鈴木健太郎】

工事で伐採 OBら奔走

イチョウは高さ約5層で植えられた時期は不明。1970年代後半には既にあったという。同校敷地内だがフェンスの外に植わっており、東側を走る国道27号の歩道に立つ並木の一つとして、通学する生徒だけでなく住民にも親しまれた。

昨年度、歩道の拡張工事があり、木を伐採することになった。工事を請け負った土木建築会社社長の水嶋守さん(42)は、同市伊佐津は、自身の長男が通うということもあり、「代々の生徒に親し



立っていたこのイチョウの木。市立城南中で今年1月(中田製材所提供)

まれた木をどうか残せないか」と、同校OBで元PTA会長の中田透さん(51)に相談。製材会社の専務である中田さんは、まな板の材料としてイチョウが高級材であることから、伐採した木を譲り受け加工し、家庭科教材として贈ることにした。

2日、同校で贈呈式があった。全校生徒と教職員の前で、中田さんと水嶋さんから、生徒会の依田響会長(15)に3年間にまな板が手渡された。中田さんは「長年みんなを見守った木を使っていただけでうれしい限りです」、水嶋さんは「思い出の木です。大切に使うて下さい」と話した。依田さんは「OB、地域、保護者の方に支えられて毎日勉強できていることを改めて実感しました」と感謝の意を述べた。